



鈴木 昭久 (すずき あきひさ)
 昭和三十六年六月、神奈川県出身。
 昭和五十九年三月、東京大学法学部
 卒業。同四月、運輸省入省。平成十
 一年七月、運輸省大臣官房企画官。
 二十一年七月、徳島県徳島産業課長。
 二十三年十月、国土交通省自動車局
 旅客課長。二十五年六月、気象庁総
 務部長。二十七年七月、国土交通省
 中京運輸局長就任。

——鈴木局長から見て最近、この地区で興味深い出来事は。

鈴木 名古屋駅周辺の再開発が急速に進み、平成三十九年（二〇二七年）にはリニア中央新幹線が開業します。名駅一帯の変化は中部運輸局としてももちろん目が離せません。

その一方で、管内のローカル鉄道が活気づいているのは注目に値します。今年三月、福井鉄道とえちぜん鉄道という路面電車と普通の鉄道が相互乗り入れして利用しやすくなり、大幅に利用者が増え

ています。また、伊賀鉄道と養老鉄道は、既に運行している四日市あすなろう鉄道と同様の、インフラを自治体が保有し民間が運行する「公有民営」方式による運行が予定されています。

このほか、長良川鉄道は今春、観光列車「ながら」の運行を始め、豪華寝台列車で話題の「ななつ星 in 九州」の車両をデザインした水戸岡鋭治氏が手掛けたデザインの水戸岡氏が手掛けたデザインの車両で、長良川沿いの風景と旬の食事が楽しめます。また岐阜バスは、九月二十七日から同じく水

再開発が進む名古屋駅周辺のアクセス、「セントレア」を利用する訪日観光客へのサービスの拡充と「昇龍道プロジェクト」の推進……。中部地区はモノづくり以外にも「観光」をテーマとした新たなステージに突入している。その最新の現場を中部運輸局の鈴木昭久局長に聞いた。

戸岡氏が織田信長をイメージしたデザインの連節バスを走らせるなど、運輸業界も民間が率先して知恵を出し、公的機関の応援を得て利用者のサービス向上を図っていく時代となっています。

——ローカル鉄道や地方バスが利用者サービスに知恵を出しているが、中部運輸局の立場は。

鈴木 中部運輸局は、管轄の中部五県の自動車の検査・登録業務や鉄道、バス、タクシー、トラック、船舶などの交通の安全確保や利便性向上を支援しています。ローカル鉄道や地方バスについては事業者や自治体との調整役となり、旅行会社等とともにPRや集客イベントなどに取り組んでいます。

——名古屋駅周辺の再開発事業でも支援を。

鈴木 名古屋駅周辺の再開発は、リニア開業を見据えたビッグ

プロジェクトです。リニア発着駅の品川一帯は既に開発が進んでおり、大阪は駅舎の場所がまだ確定していません。そんな状況下ですから名古屋駅は、これからの二〇二〇年間は「リニアの顔」になるでしょう。それに合わせて、運輸局は名古屋駅に乗り入れしている複数の鉄道やバス・タクシーとの乗り継ぎや案内など、誰もが利用しやすい駅となるよう調整ができればと思います。

——セントレア（中部国際空港）や名古屋港への支援は。

鈴木 セントレアはリーマンショックの影響を受けましたが、今年の夏ダイヤでは国際旅客便の発着が対前年比一一九%増（期初）で、国内線、国際線ともに利用客が伸びています。先日も、ホーチミンと結ぶベトナム航空便の増便が決まるなど、平成三十二年を目